

つちのいえの茶庭

高橋めぐみ

クラブボックスの間の道を進むと、茶庭がある。ここはかつて、ゴミが大量に棄てられていた廃墟を、つちのいえ有志で茶庭につくり変えた場所である。

学生のころ茶道部部員だった私は、部室の外にあるベニヤ板壁の向こうが何なのか気になっていた。ある時見てみると、得体の知れない物が積み重なり、先が何も見えない状態である。その旨を教務課に伝えると危険と判断され、ゴミ撤去業者に依頼して頂けることとなった。ゴミが撤去されたそこには、十畳ほどの空地が現れていた。ここに茶庭があれば素晴らしいに違いない!と思った私は、つちのいえでの茶庭制作を提案し、有志で茶庭制作ができることとなったのだった。

こうして始まった茶庭づくりだが、土の中にはまだゴミが埋まっており、土地整備に多くの時間が費やされた。同時進行で苔の築山や東屋、竹垣、飛び石の配置などを考え制作し、徐々に庭はつくられていく。そして一年後には、なんとかおひろめ茶会を開くこともできた。制作中の反省点や後悔も未だに多くあるが、それも含めて、廃墟を庭につくり変え、光や風が通り、人が集える場所にできたのは、私にとってかけがえのない経験となった。

現在の私は、造園植治・小川治兵衛氏の下で働いている。氏には一度、茶庭制作中に指導に来て頂いたことがあり、私の求職と、氏の求人とのタイミングが重なり、造園植治に入社することとなったのだ。日々、お施主様の庭園維持・管理をしている中で、氏からは技術的な指示は勿論あるが、掃除から始まる一つ一つの作業の根本的な意味や、庭づくりに携わる上での心構え等も教えて頂いている。氏によって何十年と手入れされ続けている庭園に関わっているのは、ありがたさしか無い。(治兵衛氏のご自身そのものがお庭だと、私は思っている)

さて現在の茶庭だが、私は少しずつの変化が面白く、卒業後も定期的に手入れに来ている。時折、後輩達がここで写生をしていたり、休んでいたりと談笑しているのに出くわすことがある。そのとき私は、ここに茶庭をつくり、手入れを続けていて良かったと、心から思う。

2013年参加

2015年日本画専攻卒業

2016年より造園植治に勤務



茶庭(クラブボックス裏) 手入れ後(2020年12月28日)